

1 事業名

平成28年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア・冬～

2 趣旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期日 平成29年1月14日（土）～15日（日）

4 参加者 38名（高校生7名，大学生31名）

5 後援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内容

（1）日程

日時	9:00	9:15	9:30	10:00	11:45	13:00	13:30	14:00	16:50	18:00	19:00	20:15	21:00	21:30	22:00	22:30	
14日 (土)		参加者受付	開会行事	講義「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての打合せ	夕食	小学生受付	はじめの会	ゆきゆきワールド	きらきらワールド 1	夕食・休憩	きらきらワールド 2	入浴	就寝指導	ふりかえり	就寝準備	就寝
15日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	もっちもちワールド	自由時間	アンケート記入	おわりの会	小学生解散	演習「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散				

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
	企画指導専門職	鎌田 信浩
	事業推進係	山崎 啓陽
	事業推進係	高橋 知也
・指導補助	法人ボランティア	16名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークチャレンじくらぶ・冬」の企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの4名を統括リーダーとして配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場でかかわる体験ができるように企画した。

（4）広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学，高等学校，報道機関に送付した。

## (5) 運営のポイント

「体験活動支援セミナー・秋」の反省を受け、子供達を対象としたボランティア活動の基本についてまとめた「ボランティアハンドブック」を作成した。第1日目の午前中に実施した「事業運営並びに活動支援についての心構え」の講義では、そのハンドブックをベースに「テンパークちゃれんじクラブ・冬」と関連付けながら話すことで、参加者がイメージを持ちやすくなり、理解の一助となるようにした。また、セミナーの参加目標や目標達成のためにどうするかをセミナー参加者に書かせることで、より主体的に事業に参加できる体制にした。講義の後の「活動内容についての打合せと説明」では、講義の内容をさらに具体的な場面として説明を進めていった。ワーキンググループで作成した活動計画書を、セミナー参加者に配付し、それをもとに活動内容に関わる留意点や支援についての説明をした。さらに、職員から補足説明をすることで、活動計画に対する共通理解の徹底を図り、参加者が主体的に活動できるように配慮した。1日目のふりかえりの時に、自分で立てた参加目標や目標達成のための手立て、また、班の子供達の様子で気付いたことなどを、班のメンバーで話し合わせた。そこで出てきた疑問点などを先輩ボランティアに教えてもらう時間を設定した。

## 8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めの頃は不安もあったが、グループリーダーとして子供と深くかかわり、真剣に向き合う中で、子供達への接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。「ボランティアハンドブック」や活動計画書を用いて、活動に対する具体的なイメージがもてたことで、秋の事業よりもセミナー参加者が主体的に行動している姿が多く見られた。今後、この内容と流れを整えていくとともに、「ボランティアハンドブック」を岩手山における「体験活動支援セミナー」でのボランティア育成の手引きとし、必要に応じて加除修正を加えていくこととする。

今年度新規登録した法人ボランティアの中で、運営側を見てみたいというボランティアが数名前泊から参加した。来年度はブラッシュアップにも積極的に参加したいということがあり、新規登録のボランティアにも運営側に参加できる機会を広めていくことで、継続的な育成につながっていくと考える。

## 9 今後の課題

活動における場の設定や時間配分、説明の仕方などの細かいところまで、参加者が意欲的に取り組める企画にしていかなければならない。子供達に感動を与える活動にするための企画段階での指導の在り方を検討していかなければならない。

先輩ボランティアの経験値を新規ボランティアに継続していくために、新規ボランティアを企画段階からワーキンググループに組み込む手立てを検討していく必要がある。また、最後のふりかえりを充実させていくために、アンケートやワークシートを精選していくとともに、アンケートを書く視点を明確に示していく。



ボランティアハンドブック  
を用いての講義



活動計画書の共通理解



子供達の情報の共通理解と  
班の役割分担

テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

**【各階層の役割】**

**本部MT**…全体の最終判断を行う。

**アドバイザーMT**…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の最終決定をする

**スタッフMT**…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の最終決定をする。また、各活動プログラムの補助スタッフとして、主に物品の準備等を行う(自らの担当の時間帯はスタッフに指示を出すリーダーとなる)

**生活班MT**…主に子供の状況把握に勤める。健康状態や怪我、安全確保について情報を集約する。点呼や様々な相談は迅速に統括チーフに情報を伝達する

**スライドショー撮影MT**…写真の撮影及び選定、スライドショーの作成を行う

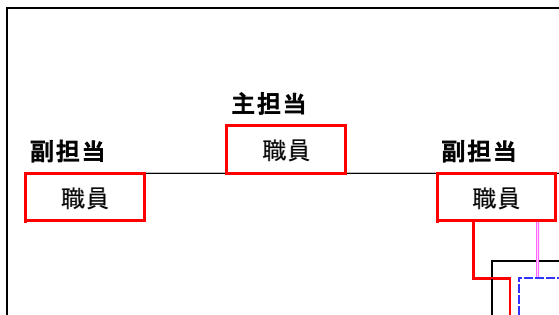
生活・活動班の役割 … 班の子供の安全管理及び生活指導を行う。

- ①人数把握をこまめにする
  - ②自分自身が模範となり、生活指導を行う(食事、入浴、ベッドメイキング、活動場所の使い方等)
  - ③心と身体の安全を確保する
  - ④自然の中で、十分楽しませる
  - ⑤些細なサインを感じる
- ※点呼の報告は統括リーダーに伝える。子供との関わり方等の悩みや相談は統括リーダー、統括チーフが対応  
 その他、キャンプ中に発生する様々な事象について、統括リーダー→統括チーフ→本部MTの順で情報共有を図る

**スライドショー作成の手順**

**プレゼン作成ソフト**を使用  
 チームで全体の構成を練る  
 ↓  
 カメラスタッフが撮影し、良い写真を選定する。(各プログラム30枚程度)  
 ↓  
 編集チーフがPCを使って作業  
 ↓  
 完成

**本部ミーティング**



**スタッフミーティング**

フレンドリーゲーム	「秋のごちそう」クッキング	オータムキャンプファイヤー	メモリークラフト	スライドショーMT
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ

**生活班ミーティング**



生活・活動班

- 1班
- 2班
- 3班
- 4班
- 5班
- 6班
- 7班
- 8班
- 9班

**体験活動支援  
 セミナー参加者  
 各班2～3名**